

講義コード	14D2220000
講義名称	西洋経済史Ⅱ　＜秋＞
科目英文名	Economic History of Europe Ⅱ
開講責任部署	経済学部　経済学科
代表ナンバリングコード	ECON1500
単位数	2.0
時間割	秋学期: 金曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
豆原　啓介

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート 小レポート/小テスト
---------------	---

講義・演習概要	19世紀後半から20世紀までの西洋経済史の基本的な流れと基礎的な事項について説明する。個々の事項についての詳細な知識の暗記より、それぞれの事項がいかに関連しながら歴史上の因果関係を成しているかについて理解することが重視される。 トピックに沿った映画を、レクチャー付きで鑑賞しながら、理解を深める。 (和泉市近隣の文化施設にて一回、学外実習を行う可能性がある。その場合の交通費は、履修者の負担となる)
学習（到達）目標	・ 近現代の西洋経済史の流れを把握し、基礎的な事項を理解すること。 ・ 経済のあり方が歴史を通して構築されるものであることを理解すること。 ・ 現在存在する経済システムの多くがヨーロッパに歴史的な起源を持つことを理解すること。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	映画『ヴィクトリア女王』鑑賞－イギリス帝国の絶頂期
第2回	前近代の経済と産業革命 －「西洋経済史Ⅰ」の復習
第3回	19世紀における世界経済の構造 －「世界経済」の中心としてのイギリス－
第4回	運輸革命と情報通信の発達 －鉄道・海運・電信－
第5回	労働運動と労働組合の誕生 －労働者の組織化－
第6回	映画『リトル・ダンサー』鑑賞 －イギリス現代史と労働組合－
第7回	近代アメリカ経済の発展 －周辺国から新興国へ－
第8回	金融業の発達と第二次産業革命 －産業構造の変容－
第9回	世紀転換期の欧米経済と第一次世界大戦 －総力戦における経済－
第10回	1920年代の経済と世界大恐慌 －繁栄からの「危機」－
第11回	戦後復興とヨーロッパ統合 －マーシャル・プランとシューマン・プラン－
第12回	ヨーロッパにおける社会保障と福祉の発達 －福祉国家の誕生と変容－

第13回	映画『シッコ』鑑賞 ー社会保障の意義とは何か？ー
第14回	近現代の欧米経済史と文化史
第15回	期末テストおよびまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	90%
レポート	0%
その他	10%

成績評価の方法（コメント）	試験は、随時実施する、復習テストと、期末テストによって構成される。 テストに際しては、各種プリント類などの参照可とする。 「その他」は、授業への積極的参加を指す。
---------------	---

参考文献	奥西孝至、鳩澤歩、堀田隆司、山本千映著『西洋経済史』有斐閣、2010年。 須藤功、廣田功、山本通、馬場哲著『エレメンタル西洋経済史』晃洋書房、2012年。
事前および事後学習の指示	・事前学習は特に必要とはしないが、歴史科目という特性上理解すべき事項が多岐にわたるために一回の授業が終了する都度、各自が復習し理解の上で次回の授業に臨むことが望まれる。 事前学習 0時間 事後学習 1時間
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	（旧：西洋経済史）02～10生読替

講義コード	1560330000
講義名称	国際法B　＜秋＞
科目英文名	International Law B
開講責任部署	法学部　法律学科
代表ナンバリングコード	0LAW2500
単位数	2.0
時間割	秋学期: 金曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
軽部　恵子

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート
---------------	---

講義・演習概要	この講義では、国際法の基礎を学びます。前半で国際法の最も重要な法源である条約を律する条約法の基礎を学びます。後半では、日本の進路に多大な影響を与えた条約を、歴史的背景や当時の国際情勢とともに学びます。国際法がわかると、新聞やテレビの国際ニュースがよくわかるようになります。それは、国際法が国家の行動を規律する世界共通のルールだからです。 講義冒頭に、国内外のメディアのホームページを用いて、最新の時事問題を国際法の視点から解説します。受講生は、メディアを批判的に読み解く「メディア・リテラシー」を学んでください。
学習（到達）目標	①国際法、とくに条約法の基礎（重要な条約、判例を含む）について、歴史的事例をもとに修得する。 ②国際法が個人の生活に直結することを理解し、国際法の歴史的文書の今日的意義を考察する。 ③国際問題の理解に必要な一般教養、とくに歴史・地理・文化・宗教に関する基礎知識を獲得する。 ④メディア・リテラシーを身につける。

講義・演習計画

回	内容
第1回	国際法の基本原則
第2回	条約（1）条約案の交渉　※この回から条約集を必ず持参してください。
第3回	条約（2）署名と採択
第4回	条約（3）批准
第5回	条約（4）効力発生
第6回	条約（5）無効と終了
第7回	条約（6）国内法との関係
第8回	日本と国際法（1）日米和親条約と日米修好通商条約
第9回	日本と国際法（2）パリ講和会議と国際連盟規約
第10回	日本と国際法（3）真珠湾攻撃と太平洋戦争
第11回	日本と国際法（4）終戦とサンフランシスコ平和条約
第12回	日本と国際法（5）日本国憲法と日米安保条約
第13回	日本と国際法（6）「唯一の被爆国」と核軍縮
第14回	日本と国際法（7）国連女性差別撤廃条約
第15回	まとめ、期末試験

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	0%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	計3回の試験のみで成績評価を行います（試験は授業時間中に実施し、事前に日程を発表しない）。出席は成績評価に全く関係ありませんが、出席しない人に単位修得は困難です。成績が振るわなかった受講生のために、追加の試験やレポートを課すことは一切ありません。詳細は第1回授業資料を読んでください。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.		国際条約集2026	大学オンライン販売		有斐閣	

参考文献	加藤信行『ビジュアルテキスト国際法』第4版（有斐閣、2025） 中谷和弘他『国際法』第5版（有斐閣、2024） 浅田正彦他『国際法』第5版（東信堂、2022） 大沼保昭『国際法』（ちくま新書、2018） 祝田秀全『知識ゼロからの戦争史入門』（幻冬舎、2020） 西谷修『ロジェ・カイヨワ 戦争論：文明という果てしない暴力』（NHK出版、2024） 田中久美子監修『理由がわかればもっと面白い！西洋絵画の教科書』（ナツメ社、2021）
事前および事後学習の指示	毎回の授業で指示される参考文献や参考URLをもとに、事前および事後学習をしてください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	国際法、条約法、日本史、世界史、武力紛争、国際人道法、核軍縮
備考(管理者用)	（旧：国際法）02～19E・SS・SW・B・L・J生読替

講義コード	17F6090000
講義名称	メディア文化特論-マルチメディア文化の理解　＜秋＞
科目英文名	Media and Culture-Multimedia Understanding
開講責任部署	国際教養学部　英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	FMED3430
単位数	2.0
時間割	秋学期: 金曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
有國　明弘

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート 小レポート/小テスト
---------------	---

講義・演習概要	20世紀末のデジタル技術の普及により、映像、画像、言葉、音楽など複数のメディア様式を融合するマルチメディアの発展は、私たちの生活や社会に大きな影響をもたらしてきた。それと同時に、私たちは日々の営みの中で、実践的にマルチメディア文化を生み出してもきた。本講義では歴史的な眼差しでメディアと人間・社会の相互作用を論じてきた「メディア論」の視座から、マルチメディア文化をめぐるさまざまな現象について考察していく。YouTubeやSNSなど個々のメディアの理解に留まらず、歴史的想像力を持って俯瞰的な目で、ダイナミックに変容していくマルチメディア文化について考えを深めていく。各講義の後には理解を掘り下げるための作業課題に取り組む。
学習（到達）目標	(1) マルチメディアとは何か、またそれをメディア論的視座から学ぶ意義について自分の言葉でまとめられる。 (2) マルチメディアの発展の歴史と社会へのインパクトを理解し、説明できる。 (3) 文化コンテンツを批判的に検討し、自分の考えを述べられる。 (4) マルチメディア文化についての自分なりの意見を持って、伝えられる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	現代メディア発展史
第3回	メディアの発展は現代社会に何をもたらしたか
第4回	インターネット時代のメディア
第5回	マルチメディア発展史小レポート（1）
第6回	インターネットは世論をどう変えたか
第7回	なぜフェイクニュースが生まれるのか？
第8回	スマートフォンは写真をどう変えたか？
第9回	メディアが煽る身体加工-美容整形を例に
第10回	メディア社会の変容小レポート（2）
第11回	広告のジェンダー表現が炎上しやすいのはなぜ？
第12回	犯罪報道-女性被害者は本当に多いのか？
第13回	越境するポピュラー文化－K-POPを事例に
第14回	グーグルマップは本当に世界を描いているか？
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	52%
その他	48%

成績評価の方法（コメント）	授業内課題（48％）、小レポート（2回・各26点＝52％）で評価する。
---------------	-------------------------------------

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	石田佐恵子・岡井崇之編	基礎ゼミ　メディアスタディーズ	大学オンライン販売	978-4790717416	世界思想社	2020年

参考文献	実践マルチメディア編集委員会（2018）『実践マルチメディア論　改訂新版』画像情報教育振興協会 水越伸（2014）『改訂版　21世紀メディア論』放送大学教育振興会 浪田陽子・福岡良明編（２０２１）『はじめてのメディア研究「基礎知識」から「テーマの見つけ方」まで 第2版』世界思想社
事前および事後学習の指示	事前学習として、各授業のテキストの該当箇所を読み、疑問点などまとめておくこと。事後学習として、作業課題に取り組み、授業の内容を自分の身の回りのマルチメディア環境と結び付け、学んだことを発展的に考えること。
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間

講義コード	1E60020002
講義名称	健康・スポーツ科学講義-体力トレーニング論 02<秋>
科目英文名	Lecture for Health and Sports Science－Theory of physical fitness
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	HSPT1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 金曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
井口 祐貴

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	本講義では、体力の概念、トレーニング法の原理原則など、体力トレーニングの基礎的な理論や情報、考え方に関する知識や、人々の生涯にわたる健康づくりに寄与するであろう体力トレーニングの意義について学習します。講義は、パワーポイントを中心に授業を展開し、映像資料なども用いて、体力トレーニングに関わる実践現場の視点からもアプローチしていきます。
学習（到達）目標	本講義では、健康・スポーツ科学に基づいた体力トレーニングに関する基礎的な理論について理解を深め、自己の体力向上・健康づくりを目的とした体力トレーニングの実践につながる教養を身につけることを目指します。 講義内では、「身体的な健康の基礎である身体の構造や機能の基礎知識を踏まえて、体力トレーニングの意義を説明できる」、「体力トレーニングという概念を幅広くとらえ、身体活動を切り口として、体力向上・健康増進の意義と社会における体力トレーニングの役割を説明できる」を具体的な到達目標とします。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	ガイダンス（授業計画の概略説明）
第2回	体力トレーニングについて考える
第3回	トレーニングの原理・原則
第4回	運動とエネルギー代謝
第5回	有酸素運動
第6回	レジスタンストレーニング
第7回	体力トレーニングの実践方法
第8回	運動と栄養
第9回	スポーツ競技者と体力トレーニング
第10回	障がい者と体力トレーニング
第11回	発育発達と体力トレーニング
第12回	高齢者と体力トレーニング
第13回	体力トレーニングと性差
第14回	生活習慣病とその予防
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

--

試験	20%
レポート	30%
その他	50%

成績評価の方法 （コメント）	(1) 試験 (20%) は、授業内においてLMSを用いて行います。 (2) レポート (30%) は、到達目標に関連するテーマを設定した1000-1400字程度のレポート課題を2回課します。 (3) 授業においては毎回、講義テーマに関連するテーマを設定した小課題および小テストを課します。毎回の授業において課される課題の内容は、担当教員から講義中、ならびにLMSを通じてその都度指示が出ます。 (4) その他 (50%) は、毎回の授業において課す課題の提出および回答から、課題への取り組み、理解度等を総合的に評価します。 (5) 課した全ての課題（レポートも含む）のうち、3/4（提出率 75%）以上の提出がなければ、原則として単位認定対象外となります。
-------------------	---

参 考 文 献	「公認スポーツ指導者養成テキスト」公益財団法人 日本スポーツ協会 「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト」公益財団法人 日本スポーツ協会 「トレーニング指導者テキスト（理論編・実践編・実技編）」NPO法人 日本トレーニング指導者協会
事前 および事後学 習の 指示	体力トレーニングや健康づくりに関する書物や映像で事前に学習し、理解に努めておいてください。また当科目は講義科目ですが、スポーツや身体活動の実践、体力の向上や健康の維持増進についての方法などにも興味を持って授業に臨んでください。これにより、講義を通して体力向上・健康づくりや健康問題への理解をより深めることができます。授業の予習・復習の他、授業で配布する資料等に目を通して受講してください。尚、授業において課す課題の提出期限については厳しく取り扱いますので、留意の上、受講するようにしてください。
学習 時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間
キー ワード	スポーツ健康科学、体力、トレーニング、健康づくり
備考 （管理 者用）	（旧：健康・スポーツ学講義〔2〕－体力トレーニング論）02～19生読替